

「経営規模の拡大」～担い手同士の法人化～



(株)ファーム穂 (安芸高田市高宮町)



代表取締役 上田 憲治

設立 平成30年10月

経営面積 45.8ha

(うち機構活用面積45.8ha)

生産品目 水稻・そば・麦・

作業受託(RC・堆肥C)

従業員 役員3名 常時雇用 1名

経営の特徴

収益性の高い米づくりと作業受託による周年での収益確保

～事例のポイント～

- ①稲作農家同士がひとつの法人となって後継者を確保
- ②新設法人へ権利の移転により手続きを簡略化

地域の課題

高宮町勘部地区、表郷・新迫地区、門田地区では、後継者のいない耕作者は近隣の大型稲作農家に農地を預ける意向を持っており、将来にわたって担い手を確保することが課題となっていました。

マッチングのきっかけ

大型稲作農家の上田さんと増田さんは、日頃から交流があり、上田さんの息子で現代表取締役の憲治さんが6年前に就農されたことをきっかけに、共同での法人設立に向けた検討を始められました。法人設立後は、上田さん・増田さんの耕作地域である3地域の人・農地プランへ担い手として位置づけられました。

機構活用により農地所有者を介さず法人への貸借事務が可能になります。

調整役(本多コーディネータ)のコメント

法人化によって、次世代へ繋がる体制ができたことは大変心強く感じています。規模拡大に伴い負担が増える農地等管理の



うち、水路管理や作業道の草刈りなどを中心に地域へ協力を求めることも必要です。引き続き地域とのつながりを大切にしていけたらと思います。

今後は、正社員を雇用し経営拡大を進め、安芸高田市でも指折りの経営体となることを期待しています。



機構を活用して良かったこと 今後の経営の抱負

両者共に法人化前より農地中間管理事業を活用していたため、法人へ農地を移転する際、手続きをスムーズに行うことができました。地代の支払事務は全て機構に行ってもらえるため、大変助かっています。まずは経営を軌道に乗せ、世代交代に備え正規雇用を増やし、また水路・作業道の管理等、法人だけでは負担が大きい部分を地域と協働で取り組める工夫をしていきたいと考えています。



高宮町の特産である酒米を柱にした収益性の高い米づくりと共に、地域のライスセンターや堆肥センター業務を受託し農閑期の収益確保を工夫されています。

